

## 1 調査の概要

### 1 調査の目的

卸売市場は、生鮮食料品等を国民に円滑かつ安定的に供給するための基幹的なインフラであるが、近年、大規模産地が徐々に大都市圏の特定の市場に出荷を集中させる傾向が強まる中で、都市部の卸売市場でのトラック荷待ち時間が顕在化しており、ドライバー不足と相まって大きな問題となっている。

また、近年は八百屋・小規模小売店の店舗数が減少する一方、大規模小売店の店舗数が増加または一定数を維持し、市場内に荷物の滞留が発生しているなど、市場内の物流問題も顕在化している。

このような問題の解決手段の一つとして、パレットの普及は、荷物の積み込み、積み下ろし等作業時間の削減の効果が確認されており、卸売市場での荷待ち時間の削減やドライバーの負担軽減につながるものと期待されている。

しかしながら、卸売市場に出荷している産地（JA）におけるパレットの導入状況や、導入できない要因が必ずしも明瞭ではなく、また、卸売市場ごとの物流問題の実態も詳細に把握しているとは言い難い状況にあり、今後、パレットの普及を図る上で、課題となっている。

このため、今般、主要な卸売市場、産地におけるパレットの導入状況等について調査を実施し、その調査結果を、パレットを基本とした今後の青果物の流通標準化の検討に当たっての一助とする。

### 2 全体調査の内容及び調査対象先

卸売業者、仲卸業者及び卸売業者に出荷している産地（JA）に対して、現地調査（現地でのヒアリングを基本。ただし、コロナの状況によって、電話でのヒアリングやリモートでの対応。）を実施した。

調査対象先は、

- ① 卸売業者：東京、横浜、名古屋、大阪の中央卸売市場から計 7 社。
- ② 仲卸業者：東京、横浜、名古屋、大阪の中央卸売市場から計 16 社。
- ③ 産地（JA）：青森、岩手、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島から計 22 社。